

第3学年 道徳学習指導案

平成28年10月26日（水） 第5校時

1 主題名 規律ある態度 【内容項目 1－（1）】

資料名 「父の一言」（出典 彩の国の道徳（中学校）「自分をみつめて」埼玉県教育委員会）

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目1－（1）は「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。」ことをねらいとしている。

日頃より、「目標達成に向け、最後に問われるのは能力ではなく、その人の人間性である」と指導している。受験生としての自覚が確実に芽生え始め、志望校合格に向け勉強に力を注いでおり、自分の実力や成績・各種テストの結果が気になってくる時期である。

自己実現に向け、勉強することはもちろん重要であるが、そのことに注視するあまり、一見成績に直接関連していないように見える普段の生活に甘さが出ている部分はないだろうか。人生における初めての進路決定を前にする今、「規律ある生活」と「自己の成長」を関連付けて考える機会をもち、より自主的・自発的に規律を守ろうとする個人・集団に必要な思考力・判断力を育みたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、人とのつながりを重視し、「礼儀と義理」を学級テーマに掲げ、明るく、男女の仲もよい。行事等へ積極的に取り組もうとする姿勢もあり、春に行われた体育祭では学年優勝、先日行われた本校の合唱祭においても、クラス一丸となって目標とする最優秀賞獲得のため熱心に努力する姿が見られた。

しかし、日常生活では未だ利己的な考えをもっている生徒も多い。受験生となった今年、授業に対しては落ち着いた態度で授業に臨むことができるようになったものの、当番や係・委員会活動など学校生活が自分達の成長につながるといった考えが希薄であり、責任感をもって活動できない面がある。また、生活態度等も、自分達の甘さや周囲の雰囲気流され、自分から行動に移せないこともある。

大きな行事を終え、学級最大の目標である「第一志望校全員合格」に向け動き出した今、改めて生活習慣の重要性に立ち返ることで、自分たちの生活を見直し、充実した中学校生活を送らせたい。

(3) 資料の活用について

本資料の主人公は、テストで思うような結果が出せないことを家族にこぼす。その話を聞いていた父親が、「靴そろえができないから、テストでもミスをする。」と指摘する。始めは父親の指摘に苛立ちをみせる主人公だったが、父親の一言と部活動の顧問の教師から言われた言葉の結び付きに気づき、考えを改めていく。

主人公が父親にみせた「靴そろえとテストの点は関係ない」という反発は、生徒達にとって共感しやすい内容である。主人公と同様に、失敗とその原因が直接的に関わりのないようなものでしかられた経験をグループで共有しつつ、本時では、知識構成型ジグソー法を参考にした授業を行う。

「知識構成型ジグソー法」とは、

- ①一人一人が、まず自分で考えて「問い」に対する答えを書く
- ②問いに対する答えを得るために必要な部品（ある視点）の担当グループに分かれ、資料をもとに話し合う（エキスパート活動）

③各エキスパートグループを解体し、一人ずつ組み合わせて新たなグループを作り、意見を統合し問いに対する新たな答えを出す（ジグソー活動）

④最後に、各ジグソーグループで考えた自分達の答えを全体で交換し合い、一人一人が、様々な答えから自分で最も納得のいく「言い方」「表現」を拾って、納得できる答えを得る（クロストーク活動）

このことである。（埼玉県総合教育センター学力向上BOOKLET参考）本時では、これらすべては用いないが、こういった活動の中で、生徒の思考が深まるように指導を行い、登場人物に対する共感を深めながら、それぞれの立場の気持ちに気付かせ、ねらいに迫る。そして、自らの生活を振り返ることによって、規律ある生活と成長の関わりについて考えさせたい。

3 研究主題との関連について

本校は本年度、研究主題「学ぶ意欲を高める指導方法の研究～生きる力を身につけ実践できる生徒の育成を通して～」を設定し、アクティブラーニングを取り入れた授業実践を中心に各教科で研修を進めている。

道徳にアクティブラーニングを取り入れる上で、まず従来の形である、資料を読み、主人公の心情やその変化に気付かせていくというパッシブラーニング的な授業展開から離れることが有効であると考えた。

資料の内容を参考程度にとどめ、ねらいとする道徳的価値を自分達の身近な生活の中に見い出させることで、子供達がより主体的な態度で、道徳的な問題を発見し、その解決策を考え、協働的に話し合う議論が深まるのではないかと考えた。

4 ねらい

規律ある生活を送ることが自己の成長に関わることを意識させ、望ましい生活習慣を自ら進んで身に付けていこうとする道徳的判断力を育てる。

5 他の教育活動との関連

事前（事後）指導	合唱祭への取り組み。よい合唱にするには、歌うことや合唱の技術以外にも重要なことがあることを指導する。
学級通信の発行	本時の内容や生徒の感想をまとめたものを発行し、意識を喚起する。
学級活動	本時で出た、今後クラスで取り組むべき「生活習慣の改善3か条」をつくる。

6 学習指導過程

	学習内容と主な発問	予想される生徒の反応	・ 指導上の留意点 ☆ 評価の観点
導入	1 発問		
	<p>「先日の合唱祭練習の時、先生から『給食の準備の早い6組は合唱もいいと思う』と言われた。このように、反省の内容と原因が直接つながらないような しかられ方をした経験はないだろうか」</p>		
	2 グループでの話し合い ・ グループで出た話の中で一番意図が分からなかった しかられ方を発表させる。	・ 部活の顧問に「あいさつができないから弱いんだ」といわれた ・ 母親から「部屋が汚いから失敗したんだ」といわれた	・ 身近なテーマでの話し合いを持つことで、積極的に話し合いをしようとする雰囲気をつくる。 ・ 資料に出てくる主人公と自分達が同じ経験をしていることに

			ふれ、共感を持って話が聞けるようにする。
展	3 条件・状況を知る。		
	<p><登場人物></p> <p>私・・・主人公。現在は大人だが、話は「私」が中学2年の頃の出来事。 うっかりミスが多い。テニス部に所属。</p> <p>父・・・職人。「靴をそろえろ」と普段から言っていた。</p> <p>先生・・・テニス部の顧問。</p> <p><場面></p> <p>・大人になった私の今→中学2年の時の出来事→現在 という流れで話が進む。</p>		
	4 資料の前半部分を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちに共感できるよう範読する。 ・テストやテニスの失敗を、能力や技術以外の原因でしかられたことを押さえる。
5 グループでの話し合い (エキスパート活動)	<p>「私」「父」「先生」「両者の間に立ち、アドバイスする人」の立場から、 それぞれの気持ちについて考えてみよう</p>		
開	6 ジグソー活動		<ul style="list-style-type: none"> ・1、2班・・・私 ・3班・・・父 ・4班・・・先生 ・5、6班・・・アドバイス <p>生活班を上記のように役割分担し、それぞれの立場で主人公等の気持ちを話し合わせる。</p>
	<p>それぞれの立場で、相手に対し、自分の気持ちや考えを理解してもらえよう話や説得を試みよう。</p>	<p><私></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それとこれとは関係ない。 ・何でもこじつけて怒らないでほしい。 <p><父></p> <ul style="list-style-type: none"> ・そんなこともできないやつに、大したことはできない。 ・私はそうやってここまでしっかりと仕事することができた。 <p><先生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗の原因はメンタルであることに気付いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動先を指定し、同じ班の中にそれぞれの立場がいる状況を設定する。 ・それぞれの立場から話をする時間を設け、相手に気持ちを伝える。 <p>☆自分の考えをしっかりと伝えたり、他者の考えに耳を傾け、考えを深めようとしているか</p>

- ・自分の考えをしっかりと伝えたり、他者の考えに耳を傾け、考えを深めようとしているか。(発言・観察)
- ・規律ある生活が自己の成長につながることを意識し、これからの自分の生き方に繋いでいこうと考えたか。
(ワークシート・観察)

○教師側の観点

- ・生徒の話し合いを積極的なものにする効果的な発問構成ができたか。

8 板書計画



